

関東の会社員は震災に見舞われた方々に何ができるか

～ 仕事とボランティアを共存させ持続させていく試み ～

2011年7月3日

株式会社アクアベンドジャパン

馬場 哲也

3月のあの震災からずっと自分に何かできないか、自分は何ができるのか、と考えてきました。自分の仕事もリーマンショック以後なかなか浮上できず、とても休暇をもらえる状況にはありません。

私はエレクトロニクスのエンジニアで、アクアベンドジャパンという逆浸透膜フィルターをつかった水の浄化システムをビジネスの中心においた企業に在職しています。会社としては水だけを売るウォーターショップを10年運営してきてこの技術をそのまま生かした浄水器を作っていますが、知名度もないことから会社はまだ軌道に乗れなくしています。

震災直後救援物資を届けようと、自社製のミネラルウォーターを現地に担いで行ったりしたのですが、現場では「物より人手」が必要で、実際に現地での活動ができないか悶々としていました。

このような状況ですからもし行くとしても土日を利用した方法、——金曜日に仕事を終え、深夜バスで現地に向かい土日作業を行い日曜の深夜帰って翌日から仕事へ赴く方法——しかありませんでした。

たった2日間で何ができるという思いと、体力的に無理を強いて逆に周りに迷惑をかけるかもしれないのでこれは避けたいと思いました。

そこで思いついたのが、行商をしながらボランティア活動ができないかということです。幸い逆浸透膜フィルターが放射性物質を除去できたことを確認したばかりだったのでこれなら最低でも一週間くらいの活動ができるのではないかと思ったのです。

状況を確認しながらだとは思いますが、昼間はボランティア活動、夕方からは行商でもいいし、行商とボランティアを2日於きで行なうでもいいし、自分は技術屋で営業能力は疑わしいのですがそこは当たって砕ける精神で何とかできる気がしました。

社長に相談したら許可してくれ、遂に活動ができるようになりました。

大急ぎで、食料・作業着・名札・安全靴・帽子・寝袋等、ボランティア活動に必須と言われるものに、商品および取り付けのための工具材料一式揃えを車に詰め込み、いよいよ6月20日、東北へ向け出発しました。



「ミネラルウォーターを現地に担いで行ったり」
2011年3月31日 飯舘村にて



「遂に活動ができるようになりました。」

2011年6月20日 横浜にて

行きがけに見つけた保険会社で旅行保険にだけは入りました。東北道に入って宮城仙台あたりで午後11時を過ぎてしまい、古川インター手前の鶴巣パーキングで車中泊としました。

翌21日石巻に到着しました。

テレビで見た光景を目の当たりにすると、やはり声を失いました。これまでテレビでは伝わらなかったこの臭い。潮の香りに混ざった汚物と魚の腐敗した臭いには一生忘れられないほどのインパクトがありました。



「鶴巣パーキングで車中泊としました。」

2011年6月21日早朝 鶴巣PAにて



「臭いには一生忘れられないほどのインパクトが」

2011年6月21日 石巻湊地区明神町にて



「いつまでも水が残った場所がある」

2011年6月21日 石巻湊地区明神町にて



「豊富なエサに我が物顔のカモメ」

2011年6月21日 石巻湊地区明神町にて



「始めは一匹のハエでさえ気になって」

2011年6月21日 石巻にて



「物が物にあたって物を壊す」

2011年6月21日 石巻湊地区大門町にて



「それでも配達しなければ」

2011年6月21日 石巻湊地区明神町にて

豊富なエサに我が物顔のカモメは、もはや美しい鳥というよりハイエナのように見え、憎らしい気にさえなってしまったけれど、それがたぶんエゴなのでしょう。始めは一匹のハエでさえ気になっていました。しかし、だんだん自分もあまりの光景にハエなど気にしていられなくなってきました。辺りを見回すとつくづく波が物を壊すというより、物が物にあたって物を壊すのだということがわかります。



「物が物にあたって物を壊す」

2011年6月21日 石巻湊町にて



「助けてくれと言っているよう」

2011年6月21日 石巻湊町にて



「船が」

2011年6月21日 石巻湊町にて



「それでも生活は続いて」

2011年6月21日 石巻湊町にて



「町のいたるところに電信柱の鉄筋が」

2011年6月21日 石巻八幡町にて



「いまだに電気が来ない。手信号が3ヶ月も」

2011年6月21日 石巻湊町にて

私はこの現実の前に、自分に何かできることがあるのかという不安が増してきました。

南三陸町では水源の6割が井戸水でそこが潮をかぶったため水道水に塩分が混入し飲用にならないと聞いていました。私たちの浄水器は海水を真水に換える能力もあるため、必要とされるかもしれないと考えていました。とにかく志津川まで向かうことにしました。



「町のいたるところに電信柱の鉄筋が」
2011年6月21日 南三陸町志津川にて



「3階の屋上に車が」
2011年6月21日 南三陸町志津川にて



「志津川病院の救助の中継が思い出され」
2011年6月21日 南三陸町志津川にて



「町のいたるところに電信柱の鉄筋が」
2011年6月21日 南三陸町志津川にて



「美しい自然の見える場所で」
2011年6月21日 南三陸町志津川にて



「一日に一度の食事」
2011年6月21日 南三陸町志津川にて

臨時の南三陸町役場に赴き、状況をお伺いした。高台で建物が流されなかった大森町の方々はそのまま生活しておられるとのこと。水のことはこの先にある水道事業所に問い合わせるため訪れました。現在はまだ飲用に使用できないため飲用水は配給しているとのことでした。



「南三陸町役場仮庁舎」
2011年6月21日 南三陸町沼田にて



「少し高台では普通に生活して」
2011年6月21日 南三陸町大森にて



「町は壊れても夕陽が美しい」
2011年6月21日 南三陸町大森より臨む志津川

ここからが本番、この地区を一軒一軒訪ね歩き私が15年間学んできた整体術を使い、皆様の体の調整を行なわせていただきました。全員とっていい皆さんの肩甲骨は背のあばら骨に張り付き呼吸が浅く、肝臓は反応が鈍くなり冷たくなっていました。肝臓の機能が低下するのは強いショックを受けたとき特有の症状であり、肩甲骨が張り付くのは強い不安からくる特有の症状です。教科書に載せられるような典型的な症状を次々に見せられ、この方々が受けたものの大きさを改めて感じました。体を緩めると今までしなかった悲しみや苦しみやいろいろなことを話し始めてくださいます。物心ついてずっと船に乗り続け、やっと手に入れた自分の船をこの震災で無くした初老の男性はこのことを始めて他人に話したそうです。一緒に整体を受けられた奥様は、ご主人のことをこれまで一回も弱音を吐くこともなく努めて明るくして、家族みんなの頼りだったけど、そんなに一人で耐えていたと聞くと涙しておられました。

私一人では本当に無力で、もっと仲間が来てくれるように働きかけてみようと思いました。

商売のほうは残念ながら、町の方が飲用水を届けてくださるので全く不便はしていないとのこと、ここでは浄水器の必要がないとのことでした。

志津川地区をまわり、次は放射能に不安を抱える福島へ移動し、営業を中心に考えることにしました。

最初に営業に回った地区は40～50年前に開発された町で、住まわれている方は70代以上と思われ、「私たちはもう必要ないから」とみなさん仰いました。

そこで定食屋で子供の居るような新興住宅地を教えてくださいました。

福島市の矢野目地区は振興の住宅地で、ここなら子供たちも多く生活しているところです。

ここで、一軒一軒御用聞きに伺いました。

「放射性物質も除去できる浄水装置をご紹介します。」ノータイムで「いりません。」

「結構です。」の連続でした。営業とは所詮そういうものなのでとにかく数を廻るだけ廻って、必要としているお客様に会えるまで頑張るとするのが唯一無二の方法だと覚悟して来ました。

それにしても確立が低すぎるのではないかと思いはじめました。

そこで次の日は「浄水器を」というのはやめて、「放射線に対してTVでは、どうだったら症状が出てどうなら大丈夫とは言ってくれません。歯切れの悪さの理由をご説明したいのと対処法のご提案をさせていただきた



「内陸部でもいたるところに被害が」
2011年6月25日 福島市矢野目地区にて

い。」というふうな説明に切り替えました。話を聞いていただける確率が100人に2～3人だったのが10人に1人くらいになりました。しかし、そこでお話ができただけで、ある事実が見えてきました。

福島のテレビでは「6月21日現在、1時間あたりの放射線量をお知らせします。福島市1. ? μ シーベルト・二本松1. ? μ シーベルト・郡山1. ? μ シーベルト・・・」というテロップが毎日流されています。

「水道水が危ない。」「ほうれん草も危ない。」「牛乳も危ない。」「魚はだめ。」「肉もダメ。」「空気中に放射性物質が浮遊しています。」「土の表面に付着しています。」「原発は大丈夫です。」「いやチェルノブイリ級にひどい状況です。」「いや原発はもう大丈夫です。」「・・・」このような情報があちこちから流されています。どれが正しい情報でどれが間違った物なのかわからない中で、福島の人たちはどうやって生活していけばいいのでしょうか。

多くの人たちがとった行動は「そのことは考えない」という態度をとることです。

私としては、放射線によりDNAが傷つけられる確立を少しでも下げる方法と、傷ついたDNAを修復する能力を高める方法のご提案をしたかったのですが、「考えてもどうすることもできない。」と思っている方々が「放射能」と聞いただけで「結構です」と言うのはもっともなことだと感じました。

ただの思い込みかもしれないと、それから何日かかけて廻りましたが、よそ者に言われても福島の皆さんは、そのことは考えたくない、聞くことさえ嫌なのだということの確認が深まったばかりでした。



「炎天下にめげて、宿に泊まりました」
2011年6月24日 福島市旅館にて



「急造するも2割くらいの入居者しか居ない」
2011年6月26日 福島市矢野目地区にて

私が廻っていた新興住宅地区の中にも広い仮設住宅が2箇所ありました。体育館の避難生活から早く開放してあげたいとの一心で仮設住宅を急造するも2割くらいの入居者しか居ないのが実情です。一度入居すると今後の光熱費は全て自ら支払わなくてはなりません。今後の仕事のめども立たない人たちは仮設住宅にすら入れない実情に胸が痛みました。

結局一台も売れず、会社と相談して営業活動は止めることにし、これからは組織立ったボランティア活動を行なうことにしました。東北に入ってから連絡を取っていたのですが、カリタスジャパンという、カリタスインターナショナルの日本支所に登録し、カリタスのボランティアとして活動することにしました。カリタスインターナショナルは163カ国が登録している子供および人権擁護のNGO活動団体です。カリタスジャパンは今回の震災復旧活動の拠点として仙台にサポートセンターを置き、その指揮下に釜石ベース・石巻ベース・塩釜ベース・米川ベースと4箇所のベースが配されています。今回私は塩釜ベースに配属され、ここから活動に出て行くことになりました。



「毎回出動前に写真を撮ります」
 カリタスジャパン塩釜ベース（塩釜カトリック教会）



「初日個人邸の清掃。高圧洗浄器を使用中」
 2011年6月27日 塩釜市北浜にて



「休憩中」
 2011年6月27日 塩釜市北浜にて



「作業終了。被災者の方に感謝される」
 2011年6月27日 塩釜市北浜にて

活動の流れは以下のようになっています。

1. 被災者からの作業依頼が塩釜市に寄せられます。（内容によっては断られる場合もある）
2. その内容は塩釜市社会福祉協議会（社協）へ伝えられます。
3. 社協から小分けされた作業の一部が塩釜ベースへFAXされます。（毎日）
4. 塩釜ベースのリーダーが現状の人数を依頼書に添って振り分けます。

初日は、個人宅の清掃でした。依頼内容は元々2坪ほどの床下のへドロかき出しだけでした。

「隣の部屋もやりましょうか」というと「お願いします」と言うことになり、結局一階部分は全てやり、ついでに外回りや、最上階にあった壊れたアンテナの撤去も行ないました。市の職員に山とあった廃材やへドロの入った土嚢を引き取っていただき建物は見違えるほどでした。最初硬い挨拶をするような関係から、これまでのお話を伺い最後は冗談まで出るようになったことは喜びでした。

引き上げるとき私たちに手を合わせて感謝して下さる姿を見て、被災者の方のそれまでの絶望感の大きさを改めて感じました。

現場が少し離れていたのと、道具類が多かったので、車で送り迎えしてもらいました。

道具および身につけていたものを清掃して室内にへドロや砂を持ち込まないよう気を使っています。

20人～30人がシャワーを浴びるのは大変で、一人



「塩釜ベースでの日課」
 塩釜ベース広間の戸

5～7分でまわしても夕食までに全員が浴びることはできません。浴びることのできなかつた人はミーティング後の自由時間まで我慢するしかありません。



「食事はビュッフェ形式。」
塩釜ベースにて



「食事風景。広間で一堂に会して行なう」
塩釜ベースにて



「広間で各自の成果と思いを一人ずつ話す」
塩釜ベースにて



「就寝も広間で持参の寝袋に。女性は畳のお御堂です。」
塩釜ベースにて



塩釜ベース周辺地図

翌日は通常松島と呼ばれている島のひとつの桂島が作業の場所となり連絡船で向かいました。今回の依頼は塩釜市の浦戸区長からのもので復旧の遅れた松島の浦戸諸島の再生をもくろむものです。ボランティアのために船のチケットはパスを発行してもらい私たちは無料となっています。



「作業道具の積み入れ風景」
2011年6月28日 塩釜港にて



「慣れたカモメたちがずっとついてくる」
塩釜港を離れて間もなく



「道具を積んで島の高台まで」
塩釜市浦戸桂島にて



「島の太平洋側は今も被害の後はそのまま」
2011年6月28日 塩釜市浦戸桂島にて



「被害の建屋にさようなら我が家の文字が」
2011年6月28日 塩釜市浦戸桂島にて



「間道の路傍に生えた雑草を刈る」
塩釜市浦戸桂島にて



「草刈が終わると耕す。」
塩釜市浦戸桂島にて



「完成！後はアジサイを植えるのみ」
2011年6月28日 塩釜市浦戸桂島にて

作業を終えた後のミーティングで、まだ被害にあった建屋がゴロゴロしているのに、アジサイを植えるよりもっと優先順位の高い作業があるのではないかという議論がありました。しかし、ボランティアの重要な決まりの中に「仕事を選ぶことはできない」ということがあります。被災者の気持ちに寄り添うことはできても、被災者の本当の気持ちを理解することは難しいと思います。前日の作業は一個人のお宅の清掃でしたが、自分が同じ立場だったら自分ひとりでヘドロ掻きをする気力が湧かないと思いました。

被災者の方々は避難所に居ます。現実を見つめ掃除しようと思ひ、バスに乗って自宅に戻ったけど呆然として立ち尽くすのみ。気がついたら帰りのバスの時間だった、と言う話はよく聞きます。ですから沢山の他人が清掃を目的にやって来るからやれるのだと思います。前日の依頼主が最後に「きれいになるんだなあ、よし、やる気になった。」と仰っていたのが印象的でした。

町の中にきれいに植えられたアジサイの花が咲いたのを見た人たちが、「ああ、町はついに動き出したんだ。ようしやろうか。」と思ってくれるとしたら、それはすごく重要なことのような気がしました。

とにかく考えないで作業をすることにしました。



「未だ海岸には大きな材木が流れ着く」
2011年6月29日 塩釜市浦戸桂島にて



「美しい自然に圧倒されながら休憩する」
2011年6月29日 塩釜市浦戸桂島にて

翌日も桂島の作業で、海岸の清掃を行ないました。この日も30度を超える真夏日で、休憩を細かく細かくとり、注意していましたがやはり一人熱中症寸前になりました。木陰の休息でなんとか大事に至りませんでした。しかし人工物は見る影もないのですが、対照的に自然の美しさはそのまま、震災前訪れたかったです。でもきっと以前にもまして美しく再生するでしょうからそのときは只々遊びに来たいものです。

ボランティアに来られる方は様々です。学生さん・リタイヤなさっている方・ダンス教師・エステティシャン・経営者・会社の有給休暇をとってきたサラリーマン・神父さん・シスター・ブラザー・たまたま転職をしようとしていた人・ご主人の理解を得てスタッフの食事の世話をしに遠くから出向いてくださる主婦・等々。これらの人々が無償の奉仕を行ないたいと全国から集まって来ています。カリタスという母体はカトリック系ですが集まっている人のほとんどは関係のない人たちです。ほとんどが2~3日で帰りますが次から次へと新しい人、再度来た、再々度来た、再々々度来た人たちが交代し、社会的地位も何も関係なく一番経験のある人がリーダーになっていきます。その連鎖には胸を打つものがあります。

私の行商とボランティアの両立は、会社に迷惑をかけたまま終わりにになりました。最後に全く売れなかった浄水装置を会社の許可を取り広告宣伝費で計上してもらい、塩釜ベースに一台取り付けさせてもらいました。今回はこれでいいかと甘々な結果を受け入れるつもりです。しかし、明日からは今回の経験を踏まえた知恵が必要となります。

私たちの最初の作業にわざわざお礼のお手紙を下さったご依頼主さん、到底手の届かない冷凍じゃない本まぐろや活きたウニを出して下さった居酒屋のおやじさん、今回の震災で神父が亡くなっているのに私たちに部屋として教会を貸して下さり続ける信徒の皆さん、酔っ払いながら私たちに感謝してくれたサラリーマンのおやじさん、会うたびに元気に挨拶して下さった小学生の皆さん、そして一緒に作業をした多くのボランティアの方々更にそれをサポートして下さった共同体および多くの方々に感謝いたします。 またお会いできる日まで～。